

平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月31日

上場会社名 石垣食品株式会社

上場取引所 東

コード番号 2901 URL <http://www.ishigakifoods.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石垣 裕義

問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課 課長 (氏名) 小西 一幸

TEL 03-3263-4444

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	326	△11.5	△41	—	△43	—	△43	—
28年3月期第3四半期	369	△12.4	△64	—	△65	—	△66	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 △41百万円 (—%) 28年3月期第3四半期 △67百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△12.83	—
28年3月期第3四半期	△19.58	—

(参考) 持分法投資損益 29年3月期第3四半期 一百万円 28年3月期第3四半期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	207	51	24.9	15.25
28年3月期	239	93	38.9	27.45

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 51百万円 28年3月期 93百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	485	7.4	△30	—	△31	—	△31	—	△9.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、3ページ【2. サマリー情報(その他)に関する事項】(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示、(3) 追加情報をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	3,390,000 株	28年3月期	3,390,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	1,779 株	28年3月期	1,779 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	3,388,221 株	28年3月期3Q	3,388,221 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。
なお、この四半期決算短信は、同レビュー手続の対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確実な要素を含んでおります。
実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高326百万円(前年同四半期比11.5%減)、営業損失41百万円(前年同四半期は営業損失64百万円)、経常損失43百万円(前年同四半期は経常損失65百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失43百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失66百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲料事業

当第3四半期においては、暖かい日が続いたことから冬物商材全般が不振に陥っております。当社の飲料事業における健康茶は、通年商品ではあるものの、温かく飲むと美味しい、根菜は身体を温めるというイメージから、ごぼう茶を中心に季節性も有しており、減収傾向が続きました。

主力の麦茶は、全体的には他社競合商品の厳しい価格競争に巻き込まれる形で売上高が減少、天候面では、最盛期である夏季は記録的な長梅雨となり、関東での梅雨明けが平年より遅れたことが影響、一時的な残暑はあったものの減少分を取り戻すには及ばず、低調であった前年同四半期を下回る減収となりました。

損益面においては、減収に伴う工場稼働率の低下が損益を悪化させました。

これらの結果、飲料事業全体では売上高150百万円(前年同四半期比13.1%減)、営業利益7百万円(前年同四半期比49.9%減)となりました。

② 珍味事業

ビーフジャーキーは、OEM商品については新商材投入が貢献、既存商品も堅調に推移し増収となりました。自社ブランド商品については、原料牛肉高騰・為替円安によるコスト高に対応するため、前期まで4年連続で行った値上げにより価格競争力が低下したこと、塩レモン風味など新商品を投入したものの市場に定着するに至らなかったこと、前期は売上に寄与した大手CVSへの納入が無かったことなどから大幅な減収となったため、珍味事業全体では減収となりました。

損益面において、為替円安および原料牛肉の価格高騰は収束しつつあり、原材料コストの上昇には歯止めがかかりました。増収とならなかったことから、工場稼働率は低い状態が続いたものの、前期の損失計上からは脱し営業利益計上となりました。

これらの結果、珍味事業は売上高173百万円(前年同四半期比9.4%減)、営業利益5百万円(前年同四半期は営業損失21百万円)となりました。

③ その他

その他事業では、収益の大きな業務用ナルトが大幅減収であったことから、その他事業合計では減収となりました。損益面では、設備負担のない委託加工事業であることから利益を確保しております。

これらの結果、売上高2百万円(前年同四半期比40.3%減)、営業利益0百万円(前年同四半期比31.7%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により、総資産は207百万円(前連結会計年度末は239百万円)、負債は155百万円(前連結会計年度末は146百万円)となりました。純資産は51百万円(前連結会計年度末は93百万円)となり、自己資本比率は24.9%(前連結会計年度末は38.9%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点では平成28年10月20日発表の当社「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の内容から修正はございません。業績に影響を与える事象が明らかになり次第、適宜お知らせいたします。

なお上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期において、重要な子会社の異動はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益への影響はありません。

(3) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで3期連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても当該状況が続いていることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

ビーフジャーキーについては、新商品の投入及び営業活動エリアを拡大して新規取扱先を開拓し拡販を図り工場稼働率を向上させることや、中国生産子会社が原料牛肉調達方法を継続的に見直すことによりコストダウンを図るなど、事業採算の改善に努めております。

麦茶の採算が天候要因によって左右されるのは避けられないとしても、既に主力商品の一翼に育ったごぼう茶の様に、当社グループの生産設備とノウハウを活かした新商品を開発・投入することで飲料事業全体の採算の平準化を図ってまいります。

また、これらの基本的施策に加え、効果の見込める事業者との事業提携についての交渉を進め、財務政策上必要であれば事業者との資本提携や、関係者による支援などを実施することを引き続き検討してまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,506	27,232
受取手形及び売掛金	62,991	68,027
商品及び製品	42,074	29,284
原材料及び貯蔵品	22,600	23,643
その他	1,734	1,048
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	173,906	149,234
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,434	11,613
機械装置及び運搬具(純額)	6,987	4,289
土地	13,807	13,807
リース資産(純額)	77	57
建設仮勘定	4,025	3,286
その他(純額)	761	748
有形固定資産合計	40,093	33,802
無形固定資産		
借地権	12,883	10,307
リース資産	0	0
その他	331	575
無形固定資産合計	13,214	10,883
投資その他の資産		
投資有価証券	4,535	5,479
その他	7,670	7,943
投資その他の資産合計	12,206	13,422
固定資産合計	65,514	58,108
資産合計	239,421	207,342

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,332	20,954
短期借入金	-	25,000
1年内返済予定の長期借入金	12,780	11,424
リース債務	2,711	2,767
未払法人税等	1,043	1,027
賞与引当金	1,897	419
未払金	24,938	15,686
その他	4,791	10,747
流動負債合計	77,495	88,026
固定負債		
長期借入金	65,203	65,720
リース債務	3,257	1,175
繰延税金負債	431	723
固定負債合計	68,892	67,619
負債合計	146,387	155,646
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,000	300,000
資本剰余金	53,293	53,293
利益剰余金	△273,621	△317,113
自己株式	△782	△782
株主資本合計	78,889	35,397
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	959	1,610
為替換算調整勘定	13,184	14,688
その他の包括利益累計額合計	14,144	16,299
純資産合計	93,033	51,696
負債純資産合計	239,421	207,342

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	369,180	326,747
売上原価	251,066	209,611
売上総利益	118,114	117,136
販売費及び一般管理費	182,805	158,567
営業損失(△)	△64,691	△41,431
営業外収益		
受取利息	10	7
受取配当金	66	83
雑収入	22	16
営業外収益合計	99	107
営業外費用		
支払利息	919	1,181
為替差損	418	536
雑損失	0	14
営業外費用合計	1,338	1,733
経常損失(△)	△65,930	△43,056
税金等調整前四半期純損失(△)	△65,930	△43,056
法人税、住民税及び事業税	435	435
法人税等合計	435	435
四半期純損失(△)	△66,365	△43,491
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△66,365	△43,491

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純損失(△)	△66,365	△43,491
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	478	650
為替換算調整勘定	△1,537	1,503
その他の包括利益合計	△1,059	2,154
四半期包括利益	△67,424	△41,337
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△67,424	△41,337
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで3期連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても当該状況が続いていることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

ビーフジャーキーについては、新商品の投入及び営業活動エリアを拡大して新規取扱先を開拓し拡販を図り工場稼働率を向上させることや、中国生産子会社が原料牛肉調達方法を継続的に見直すことによりコストダウンを図るなど、事業採算の改善に努めております。

麦茶の採算が天候要因によって左右されるのは避けられないとしても、既に主力商品の一翼に育ったごぼう茶の様に、当社グループの生産設備とノウハウを活かした新商品を開発・投入することで飲料事業全体の採算の平準化を図ってまいります。

また、これらの基本的施策に加え、効果の見込める事業者との事業提携についての交渉を進め、財務政策上必要であれば事業者との資本提携や、関係者による支援などを実施することを引き続き検討してまいります。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められません。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。